

満開！ だいこん座5周年

明るく楽しい中高年素人劇団

五百を越す沼南公民館の大ホールが満員になった。沼南地区で旗揚げした「だいこん座」の五周年公演は、柏市との合併三周年も記念して、多彩なバラエティショー「青春謳歌 それぞれの道」と、お笑いを盛り込んだミュージカル風創作劇という「老婆の休日」で、まだ春浅い二月十七日の午後をにぎやかにした。

青春謳歌…には、麗澤高校演劇部、市民劇団「あひこ舞台」、舞踊教室「寿の会」、だいこん座も加わって、世相が描き出される。高校生は楽しんでいて明るい。それが客席に伝わる。大家族の娘未と、共働き夫婦の娘静香との交流。静香の母が帰ってくる。娘の誕生日を忘れてはいない。娘心に灯がともる。締めくくりは逆井中の「逆井ばやし」。横笛と小太鼓に乗り、沼南地区二度目の公開だ。

だいこん座の「水戸黄門」、座員はかなり代わった

沼南公民館でミュージカル「老婆の休日」に挑戦

だいこん座の座長・生島和恵さんは、生島きもの文化学院」の、着付けの先生、院長である。着付けをドラマ仕立てにし、上海やオーストラリアで公演してきた。沼南町と柏市の合併前日には、同じ公民館で帯結びデモショーショーなども見せた。

そのだいこん座を初めて見たのは、手賀の在宅介護支援センター・アネシスの「水戸黄門」だった。続いて藤心近隣センターでも見た。そして今度はミュージカルと来た。

生島さんが、着付けに、わが人生の方向を確かめたのは福岡である。ご主人の転勤で、高知、神戸と遍歴するが、大津が丘に落ち着いて生来の芝居好きが爆発した。

最初は、だれも相手にしてくれなかったというけれど、積年の根性が実って、協力出演の多彩さに驚く。青春謳歌…には、座長自らの筋運びだ。

「老婆の休日」は、副座長の河本隆彦さんが暖めていたという奇想天外な脚本から。オードリーとグレゴリーは「ホームの休日」の撮影50年後、日本で会う約束をする。オードリーは他界したが、グレゴリーは日本へやってくる。元氣な老婆たちが生を樂しむ広場。神の温情で、天国から降りてきたオードリーと出会う。老婆たちと踊るふたり。これぞ素人ミュージカルの楽しさ！

